

トライポッドワークス株式会社



代表取締役社長
佐々木 賢一 氏

◆企業の概要

企業名：トライポッドワークス株式会社
代表者：代表取締役社長 佐々木 賢一
住所：仙台市青葉区一番町1-1-41
カメイ仙台中央ビル7F
設立年：平成17年
業種：ITシステム開発・販売
資本金：64百万円
従業員数：21名

◆事業の概要

当社は、セキュリティソリューション事業、先端技術開発事業、ITサービス事業を柱とするシステム開発会社。電子メールセキュリティや不正侵入防止等の企業向けITソリューションで、4,000社以上に導入実績あり。新システムとして当社独自の画像圧縮転送技術に加え、東北大学IIS研究センターのアドバイス等を受け、地域医療連携向けの高速画像処理共有システム「Med.i.Compressor」を開発。



社内風景

東北大学 IIS 研究センターのアドバイスを受け、地域医療連携向けの高速画像処理共有システム「Med.i.Compressor」を開発、診断画像の高速送信と安価で簡単なシステムの構築に成功



企業向けファイル転送システム「GIGAPOD2010」



社内会議風景



「Med.i.Compressor」

◆受賞の理由

医療にIT技術が活用される中で、医療機器のCTやMRI、レントゲン等の画像のデータを送信することで、専門医による遠隔地での医療が可能になりつつある。しかし現在は救急でこの遠隔医療を行う場合、ADSL通信回線で1.5ギガバイトの画像サイズ（CD-ROM約2枚分）を送信すると、送信完了までに約3時間を要するほか、高額な医療情報システムの構築が必要であるため、遠隔医療は十分に普及していない状況である。

このような問題を解消するため、当社は、診断画像の高速送信と安価で簡単なシステムの構築を可能にした、地域医療連携向け高速画像処理共有システム「Med.i.Compressor」を開発した。

これまで画像圧縮はCPU（Central Processing Unit）を用いて行われており、上記の通り大幅に時間がかかる欠点があった。当社開発のシステムは、従来ゲームに代表されるような3Dグラフィックス処理に使用されていたGPU（Graphics Processing Unit）を用いたもので、その機能を医療画像の圧縮に転用したものである。当システムは、①画像機器に接続するだけの簡単設置であること②従来約3時間かかっていた転送時間を大幅に短縮し、約15分という短時間で画像を高速送信できること③当システムで使用されているGPUはパソコンに使用される汎用商品のため、数十万円と安価な価格であること、を実現させ極めて画期的である。

当システムの活用により、医療環境が十分整備されていない離島や過疎地等の地域においても初期診断や迅速な医療を行なうことが可能となることから、今後地域医療機関からのニーズが拡大するものと予想される。遠隔医療の発展に大きく貢献するシステムを開発した当社の技術力・開発力は大きいと評価され、今後この分野での成長が大きく期待できる企業である。